

2015年2月8日作成

シンガポール国立大学派遣交換留学の報告

国際開発工学専攻 修士1年
齋藤 亘

今回、東京工業大学の派遣交換留学という制度を利用して、2014年8月より12月までの1学期間、シンガポール国立大学(National University of Singapore)に留学を行うことが出来たので、以下をご報告させていただきたいと思います。

1 シンガポール国立大学の概略

シンガポール国立大学は、シンガポールという国そのものの特徴(中国系、マレー系、インド系をはじめとして民族が多い)をそのまま表すかのように、非常に多様な人が在籍している大学でした。アジア地域からのフルタイム・交換留学生が多いのに加えて、欧米からの学生が多いのも特徴的だと思います。下の写真は私が参加した講義の集合写真ですが、非常に多様な人が講義にいたのが見て取れると思います。また、東工大と違って、文理あわせた総合大学です。さらに、大学ランキングでも世界トップクラスであるところからも見て取れますが、教育の質はかなり高いと考えていいと思います。



参加した講義の写真

2 留学の動機

留学の動機の中で、もっとも重要視していたのは、「海外の人とプロジェクトをやるというのがどういうことかを実際に感じる」という点です。これは、将来海外で働きたいという自分の希望から生まれた動機でした。自分の所属する東工大の専攻でも、海外からの留学生を交えて、グループワークなどをやることは確かにありましたが、それでも、メンバーの半分を日本人が占めているという状況は、将来自分が身を置くであろう状況と似て異なるものであると感じていました。

その中でも、シンガポール国立大学を選んだ理由は、1.今後アジアの発展が見込まれること 2.英語圏の国であること 3.近隣諸国とのアクセスがいいこと などが挙げられます。

3 留学の準備

留学の準備に関して、これとって困ったことはありませんでした。申し込みの際には、TOEFL のスコアが求められていたので、試験を目標に対策をして、規定スコアを取得しました。

申し込みが完了し、受け入れが決まってからは、寮の取り決めや、奨学金の受け取りに関して手続きがありましたが、東工大・シンガポール国立大学からの丁寧な指示に従うことで、特別問題は起こりませんでした。また、同じ研究室に所属していた先輩に、数年前に私と同じくシンガポール国立大学に交換留学していたひとがいらっしゃったので、その方などにお話を聞くことで足りない情報を補いました。

4 留学期間中の学業

留学期間中は、研究をせず、以下の3つの講義を受講していました。

[1]GLOBAL INFRASTRUCTURE PROJECT MANAGEMENT(土木・修士対象)

[2]MANUFACTURING LOGISTICS(Industrial&Systems・学部3年対象)

[3]CHANGING ECONOMIC LANDSCAPE OF SE ASI(Arts・学部2年対象)

特に、GLOBAL INFRASTRUCTURE PROJECT MANAGEMENT では、当初の目的である、グループワークが設けられ、私はインド人4人(いずれも25歳以上で働きながら修士を取ろうとしている)と同じグループになりました。インドのムンバイ(下図参照)にLRTをつくることを想定した、グループワークを行いました。



ムンバイの位置

グループワーク中は、慣れない英語(それも相手が使うのはなまりの強いインド英語)でのディスカッションに苦戦しましたが、それを通して、海外でプロジェクトを進める上での重要なことを学ぶことが出来ました。やはり、1.英語力 2.積極性 3.チームワーク 4.異文化への理解 は海外でプロジェクトを行ううえで必要なものだと思います。

5 留学期間中の学業以外の活動

学期の真ん中あたりに設けられている、1週間程度の休みや、学期終了後の休暇を利用して、インドネシア・ブルネイ・オーストラリアといった近隣諸国に行きました。また、学期中も週末には、シンガポール国内の観光名所に足を運びました。特に、ブルネイという国は、日本からわざわざ観光でいく機会があまりない国だと思うので、とても良い機会でした。



シンガポール観光名所:マリーナベイサンズとマーライオン

6 留学の総括

今回の海外留学は、私にとって、今までの人生でもっとも長い海外滞在となりました。この留学の間に、手に入れたものは、まだ完全に具体化出来ているわけではありませんが、なんとなく多い気がしています。留学の動機であった、プロジェクト進行に関しては、少なくともひとつのプロジェクトを、グループの中で日本人が一人であるといった状況の中、最後に単位が取得できるくらいまではやり遂げました。そのなかで、上記にしたように、当然見えてくる課題は多く、今後日本で消化していかなければいけないと思っています。

自分が目的としていなかったものの中で、特に今後役に立つ貴重なものだと思ったのは、シンガポールで会えた人々とのつながりです。留学では、短期の旅行と違って、あたりまえですが海外の大学に所属するので、それを目的とした意識の高い学生(日本人・海外の学生ともに)に出会うことができます。滞在時間も長いため、そういう優秀な学生と一生の付き合いが出来る可能性も高いです。最終的には、自分が何をやるかも重要ですが、どういう人と話をして、その人たちから何を吸収できるかという部分も同じ位大事だと思っているので、長い目で見ると、グループワークのスキルよりもこちらのほうが今後役に立つのではないかと感じています。

以上がご報告となります。

最後に、この留学を許してくださった自分の所属する研究室の指導教官の先生方と、両親、その他お世話になった方に、感謝の意を示させていただき、この報告書の結びといたします。誠に有難うございました。

(以上)